

## 第207回 「元気に百歳」クラブ「道草」(第16回通信句会)開催

世の中に煩わしきことの絶えることはありません。次々と未曾有のトラブル、難事態が生起します。コロナ禍の次は、ロシア、ウクライナ間での事変。こんな社会環境の中で「俳句の居場所はあるのか」ということですが、蕪村の句に「灌仏やもとより腹はかりのやど」という句があります。お釈迦様が母のお腹を十月十日借りて生まれた地球、母のお腹も仮の宿であれば、生まれた地球もまた仮の宿。その地球上で人は、如何なる生き方をしていくのか。蕪村の詠んだ「もとより腹はかりのやど」という句、その謙虚な姿勢の中にも俳人の居場所があるのではないのでしょうか。

3月の通信句会です。晶如先生と奥田さんが提示された今月の兼題は、兼題1「春の日」、兼題2「蝶」、兼題3「当季雑詠」です。なお、投句受付から一覧表の作成、更に選句の受付から選句のまとめまで、一貫して担当して下さったのは森田多佳さんでした。お三方さまには、いつもお世話になり有難うございます。今月参加して下さったのは、次の皆さま方です。

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原晶如さん、舩戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然の17名。

今月、皆さんが詠んで下さり、選んで下さった優秀句です。コメント欄に句を読んだあと、書いて下さる「ひと言」も増えてきました。引き続き「有益なコメント欄」にしていきたいですね。本日の句会記録を読んだ後にも、さらに気が付く反省点が出てくるかも知れません。また、このHPを愛読して下さる皆さま、ご高覧いただきました後、お気づきになられることがありましたら、是非ともご一報下されば幸甚です。

### 兼題1. 「春の日」

◎『春一日されど哀しき戦禍かな』	錦流	天2☆7
◎『春の日や笑顔も弾む立ち話』	傘吉	天2
◎『春の日や昔語りに上の空』	月草	天1

### 兼題2. 「蝶」

◎『焼き立てのクロワッサンに朝の蝶』	栄女	天1☆8
◎『初蝶や少しときめきある出会い』	明峰	天1
◎『瑠璃色の空を背に舞ふるリシジミ』	歌多音	天1
◎『理科室の骨標本や蝶の昼』	荻女	天1

### 兼題3. 当季雑詠句

◎『忘るるは長生きの術難かざる』	白然	天3
◎『掛け声も春色となる八百屋かな』	明峰	天2☆9
◎『停戦へヴィオラに託す祈りの春』	蒼樹	天2
◎『春霞空に溶け込む太平洋』	清助	天1

兼題1では、錦流さんの句「春一日されど哀しき戦禍かな」が、天賞二つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。テレビに映し出される、ウクライナにおけるロシアの爆撃と惨状を詠まれたのでしょう。まさに中七、下五の「されど哀しき戦禍かな」です。早期の終戦を祈念するばかりです。次に傘吉さんの句「春の日や笑顔も弾む立ち話」が、天賞二つを獲得しました。思いがけず往来で、ぼったりと出会った友達。春の日を浴びてお喋りが止まらない。聞こえてくる笑い声、笑顔が弾んでいるように見えます。もう一句、月草さんの句「春の日や昔語りに上の空」が、天賞一つを獲得しました。天賞推挙のコメントに

ありますように、懐かしい昔話に、時を忘れてつい熱中してしまうことがあります。春の日射しに、お相手の声の子守唄になって・・・という状況でしょうか。季語の「春の日や」が、活かされていると思います。

兼題2では、栄女さんの句「焼き立てのクロワッサンに朝の蝶」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。句意は「卓上に置かれた焼き立てのクロワッサンとガラス窓の向こうに見える蝶がひらひらと翹ぶ」という仕立ての句であると思われませんが、仮に蝶を人間に置き換えれば、生き活きとした春の朝食の図が浮かんで参ります。明るく快い雰囲気醸し出している句ですね。

次に明峰さんの句「初蝶や少しときめきある出会い」が、天賞一つを獲得しました。上五の「初蝶」と中七、下五の「少しときめきある出会い」が、見事に響き合って、胸躍る出会いの句になりました。脳裡に「血が滾る」というフレーズが浮かび、作者のマインドは若いです。次に歌多音さんの句「瑠璃色の空を背に舞ふるリシジミ」が、天賞一つを獲得しました。瑠璃色の空に舞うリシジミという綺麗な空と同色の蝶の舞いが想起できますが、「一言」欄に記載されていますように、「リシジミ」という蝶について、もう少し掘り下げて調べる必要があるかも知れません。もう一句、荻女さんの句「理科室の骨標本や蝶の昼」が、天賞一つを獲得しました。天賞推挙のコメントにありますように、小学校時代から理科室の骨標本は平常心では見ていなかったように思います。蝶がその骨標本を訪ねて来たということでしょうか。

兼題3では、白然の句「忘るるは長生きの術難かざる」が、天賞三つを獲得しました。近頃の暮らしのテーマは、「これからの余生を如何に充実して暮らしていくか」であります。その実態の一端を披露させていただきました。ご同意をいただけたのではないかと安堵しております。次に明峰さんの句「掛け声も春色となる八百屋かな」が、天賞二つと最多得票賞を獲得しました。天賞推挙のコメントにありますように、お店に並べられた活きのよい春野菜の豊富さの中に、春が来た喜びがあります。つい八百屋さんの掛け声も、明るく大きくなっています。「掛け声も春色となる八百屋」とは・・・、何とリズム感のよい言葉でしょう。聞いている方も楽しくなりますね。

次に蒼樹さんの句「停戦へヴィオラに託す祈りの春」が、天賞二つを獲得しました。この度のロシアの暴挙。今や独立国となったウクライナに接する隣国ロシアのトップの対応・・・ここに問題があるのではないのでしょうか。まず戦争をストップし、後始末の方法を話し合わねばなりません。もう一句あります。清助さんの句「春霞空に溶け込む太平洋」が、高得票の天賞一つを獲得しました。太平洋が沖へ行けば。空に溶け込んでいるというスケールの大きな景です。中七の「空に溶け込む」というフレーズが見事でした。

余談ですが、清助さんが太平洋戦争の終末、当時、旧満州に住んでおられ、終戦と同時に旧ソ連軍に攻めて来られて、途中でお爺さんとお父さんを亡くしながら、一年以上の年月を経て、日本に帰国した新聞記事を、3月8日のメールで拝読しました。その清助さんの目でご覧になった「空に溶け込む太平洋」には、私たちの思いの届かない「海」があるように思います。七十年以上時を経た現在ですが、お爺様、お父様のご冥福をお祈り申し上げます。

(白然記)